

自然と人の文化

多治見市文化財保護センターだより

もくじ

- | | |
|------------------------------|-------------------------|
| ・企画展「高田徳利～高田の窯屋と小名田の商人～」・・・1 | ・体験講座「昭和の遊びを体験しよう！」・・・3 |
| ・発掘調査速報・・・2 | ・カワニナ生息数調査と草刈・・・4 |
| ・近代和風建築調査・・・2 | ・虎溪山永保寺の防火訓練・・・4 |
| ・第13回喜多町西遺跡公園まつり・・・3 | ・最近の寄贈資料紹介・・・4 |

企画展

高田徳利～高田の窯屋と小名田の商人～

展示期間：平成26年1月27日(月)～6月27日(金)



▲高田徳利と樽型徳利

明治時代から昭和20年（1945）頃まで現・多治見市高田地区および小名田地区で生産された「高田徳利」は、鉄絵具や呉須によって酒屋の店名や屋号が筆書きされるという特徴をもっています。「高田徳利」は東日本一帯に広く流通したため、その名称や形は全国的にもよく知られた存在ですが、歴史的背景はあまり知られていません。

「高田徳利」は、酒屋が客に貸与し、客は空になった徳利を酒屋に持って行き酒を買うという用途から「通い徳利」あるいは「貸し徳利」ともいわれました。また由来は不明ですが、高田徳利を含め器面に文字が書かれた通い徳利は「貧乏徳利」ともよばれました。高田地区が徳利の産地となったのには、高田で「白粉土」といわれる良質の陶土が産出したことが背景にあります。一方、小名田地区でも徳利生産は行われましたが、高田ほど良質の陶土に恵まれず、生産量は少ないものでした。

そのような背景もあり、明治時代以降は主に高田の窯屋（製陶業者）が高田徳利を生産し、小名田の商人が販売するという構造ができあがっていったとみられます。

高田徳利は大正12年（1923）の関東大震災直後、一時的に注文が殺到し、江戸時代以来の好況を迎えますが、わずか数年でガラス瓶に押され需要が減少したとされます。その危機に直面し、高田の窯屋は網足や湯たんぽなど徳利に替わる生產品を模索する一方、小名田の商人は盃や小皿などに店名や屋号を入れた商品（印物）を販売する「印物屋」へと転換をはかってきました。本展では、近代の高田徳利の生産と流通の歴史を紹介するとともに、徳利の需要減少に直面したとき、高田と小名田の人たちが生き残りをかけてどのような道を選択したか、窯屋と商人それぞれの選択にもスポットをあてます。



▲企画展の様子

発掘調査速報

すみよし 住吉古窯跡群 発掘調査

場所：多治見市住吉町7丁目ほか
期間：平成25年5月7日～平成26年1月10日
面積：約1940㎡

住吉古窯跡群は、市内住吉町7丁目を中心とした山地内に分布する平安～鎌倉時代の古窯跡群です。昨年5月より実施してきた発掘調査も、本年1月初旬をもって調査が完了しました。調査中に新たな窯が見つかるなど、平安～鎌倉時代の窯が合計12基（平安時代8基、鎌倉時代4基）発掘されました。また、各窯体に伴う遺構・物原等からは平安時代の灰釉陶器、鎌倉時代の山茶碗など大量の遺物が出土しています。

最後の調査地点となった住吉1号調査区では、9～10世紀の灰釉陶器窯が4基と、10世紀の緑釉陶器専用の円形平窯（住吉16号窯）が1基検出されました。緑釉陶器とは、原料に銅を使用した緑色の釉薬を掛けた陶器で、平安京や地方役所・寺院などで用いられた当時の高級陶器です。京都・愛知・滋賀で主に製造されていましたが、過去の調査で住吉1号窯周辺から緑釉陶器の破片が採取されていたことから、多治見でも焼成されていたことが知られていました。多治見の緑釉陶器は、1号窯で灰釉陶器と伴焼されていたと考えられていましたが、今回の調査結果により、製品素地を他の灰釉陶器窯（窖窯）で焼成した後、緑釉を掛けた製品を16号窯で再焼成していたと判明しました。



▲住吉古窯跡群（住吉1号調査区）

住吉16号窯（緑釉陶器専用窯）



▲住吉16号窯跡

16号窯体の地上部は完全に滅失しており、地下の底部のみが検出されました。あまり類例を見ないこの緑釉陶器専用の円形平窯は、東濃産緑釉陶器を知る上で重要な存在であり、多治見市はもちろん全国的に見ても貴重な財産です。最終的に16号窯体は復元保存処理を施し、今後活用される資料として残します。（美濃焼ミュージアムで展示をしています。）

が、過去の調査で住吉1号窯周辺から緑釉陶器の破片が採取されていたことから、多治見でも焼成されていたことが知られていました。多治見の緑釉陶器は、1号窯で灰釉陶器と伴焼されていたと考えられていましたが、今回の調査結果により、製品素地を他の灰釉陶器窯（窖窯）で焼成した後、緑釉を掛けた製品を16号窯で再焼成していたと判明しました。

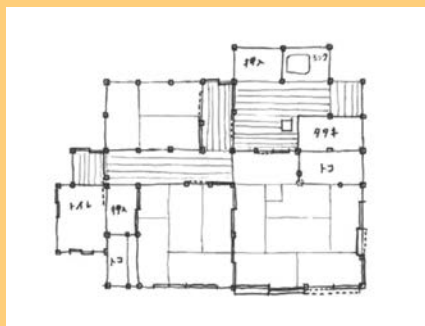


▲住吉古窯跡出土の緑釉陶器（10世紀）

近代和風建築調査

近代和風建築調査は文化庁の指導のもと、平成4年度から全国で順次行われています。岐阜県では平成25年度から27年度にかけて実施することになりました。

調査の対象は明治時代から昭和40年代までに建てられた和風の建物です。実態を把握し、後世に伝えていくことを目的とし、具体的には図面作成、写真撮影、聞き取りの調査を行います。今年度多治見市では永保寺五峰庵等十数件の調査を行いました。今後も引き続き調査していく予定です。



左：永保寺五峰庵図面
右：永保寺五峰庵（明治時代末頃）



第13回喜多町西遺跡公園まつり

平成25年9月28日の午後1時から、第13回喜多町西遺跡公園まつりが実施されました。このイベントは、弥生時代～古墳時代初期の住居跡などが数多く発見された喜多町西遺跡を会場とし、大昔の生活を実際に体験しながら歴史を学習するものです。当日は小学生以下の参加者21名とその保護者が参加され、ボランティア12名にもお手伝いいただきました。



▲勾玉作りの様子

今年は勾玉作りの体験をメインに、弓矢体験や火おこし体験などを行いました。

メインの体験である勾玉作りは、滑石^{かつせき}という石を勾玉の形に加工するものです。きりや紙やすりを使用して手作業で石を削り、同じものを作ってもそれぞれ少しずつ異なる形の勾玉が完成します。

火おこし体験ではマイギリという道具を使いますが、子どもも大人も普段の生活では触る機会のない道具であるため上手く扱えず、親子で協力して体験を行っていました。



▲火おこし体験をする参加者



▲スライドの上映

また、復元住居の中では喜多町西遺跡を紹介するスライドも上映され、参加した子どもたちが遺跡や出土品について積極的に質問する姿を見ることができました。

体験講座「昭和の遊びを体験しよう！」

企画展「私たちの子ども時代」（平成25年12月27日まで開催）に関連した講座として、「昭和の遊びを体験しよう！」が12月14日に多治見市文化財保護センターで行われました。

今回の講座では竹とんぼや将棋を使用した遊び、おはじきなど様々な昭和の遊びを用意し、畳やちゃぶ台のある空間で遊びの体験を行いました。缶ぽっくりやグス玉鉄砲など外での遊びも行われ、寒い中にも関わらず手作りの玩具で元気に遊ぶ子どもたちの姿も見られました。実際に火鉢に火を入れその温かさを体験したり、ボランティアの方々に昔の話を聞きながら遊んだりすることで、今の子どもたちには普段とは異なる新しい体験を、昭和の子ども時代を過ごした大人には懐かしさを感じていただけの内容となりました。

また、今回の講座では学芸員による企画展の解説も計3回行いました。遊びの体験とともに企画展をご覧くださいことで、各世代が子ども時代にどのような過ごし方をしていたのか、より理解を深めることができたのではないかと思います。

当日はボランティアの方7名にご協力いただき、親子での参加者など34名の方にご参加いただくことができました。



▲竹とんぼ作りをする参加者



▲展示解説の様子



▲あやとりを教えている様子



エンゴロさん

カワニナ生息数調査と草刈

市天然記念物である「北小木のホタル」の調査の一環として、毎年秋にホタルの幼虫のえさであるカワニナの調査を行っています。今年度のカワニナ調査は10月30日に、ホタルの発生する北小木川と神明洞川の計14地点で行いました。調査方法は、50cm×50cm範囲に生息するカワニナをバットに拾い上げ、個体の数と殻長を計測します。

今回の調査では、全体的に例年より多くのカワニナが確認できました。特に慈光寺裏の地点では飛びぬけて多く、過去最高の593匹を確認しました。

これまでの調査によりカワニナ数が翌年以降のホタルの発生数に大きく影響することが分かってきています。今後も調査を続けてデータを蓄積していき、ホタル保護に役立てていきます。

また、この他にホタルの生息する環境を整えるため、草刈を年3回実施しています。そのうち春と秋の2回は地元北小木町とボランティアで行っています。11月17日に約20名の参加者で、川ののり面を中心に草刈をしました。参加していただきました皆様には、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。

虎溪山永保寺の防火訓練

毎年1月26日は文化財防火デーとして、全国的に文化財防火運動が行われます。

多治見市ではこれにあわせ、虎溪山永保寺で2月2日に雨天の中防火訓練が実施されました。この訓練は、国宝建造物や重要文化財を火災などの災害から守り、市民の文化財愛護の意識を高めることを目的としています。当日は昼間の火災を想定し午前9時から始まり、永保寺自衛消防隊と消防本部および消防団が参加しました。



▲初期消火訓練の様子

最近の寄贈資料紹介



▲陶歯と成形型

とうし 陶歯と製造道具

市内三笠町・小田井商店（製陶）より、明治時代の陶歯とその製造道具の寄付がありました。陶歯は、多治見では明治20年代に歯科医師小森令次と製陶業の加藤慶九郎が研究を始め、「黒色陶歯」の開発に成功しました。さらにその後、加藤慶九郎は「鍊込黒陶歯」の開発に成功します。黒色陶歯は上絵付で黒色を着色したため、使用しているうちに色はがれてきてしまいますが、「鍊込黒」は黒色の顔料を土に練り込んで作ったため、色はがれがなく、より艶のある黒色を出すことができ、高値で販売されたそうです。ご寄付をいただいた小田井商店は慶九郎の子孫に当たり、このたび大切に保管されてきた資料をご寄付いただきました。小田井商店を始め、資料をご寄付いただいた方々に御礼申し上げます。

利用案内

開館時間：9：00～17：00 休館日：土・日・祝日、年末年始 入場無料
（交通案内）タクシー：多治見駅から約20分
バス：「美濃焼団地前」下車徒歩5分
多治見駅前発 可児駅前行
多治見駅北口発 草ヶ丘9丁目行/桂ヶ丘1丁目行（金岡町経由）

自然と人の文化

No.43 2014.3

編集／発行 多治見市文化財保護センター

〒507-0071

岐阜県多治見市旭ヶ丘10-6-26

TEL(0572)25-8633 FAX(0572)24-5033

URL <http://www.city.tajimi.lg.jp/bunkazai/>

（作成部数1,300部、作成費用24千円）

